

第3回専門医資格認定試験の試験問題について

専門医制度委員会
委員長 荘司 榮徳

平成7年8月26、27日に第3回専門医資格認定試験が実施されました。今後の制度改善と受験者の便に供するため、委員会は従来どおり、この試験で用いられた試験問題を公表することといたしました。試験方法は、昨年と同じです。以下に筆記試験、口頭試験の全問題文を掲載いたします。

1. 筆記試験

問1. 以下の2問について回答せよ。

- (1) 産業医が行うべき健康診断の事後措置について記せ。
- (2) 産業衛生領域の許容濃度の概念と現場での利用法について記せ。

問2. 以下の5問中3問を選び回答せよ。

- (1) 特殊健康診断における生物学的モニタリングの意義について記せ。
- (2) SMR(Standardized Mortality Ratio)におけるhealthy worker effectについて記せ。
- (3) メンタルヘルスケアにおける初期兆候として注意すべき事項を記せ。
- (4) 製造物責任法(PL法)に関連して、事業場におけるMSDS(Material Safety Data Sheet)の役割を記せ。
- (5) 健康管理手帳の交付対象とその意義について記せ。

問3. 以下の4問中1問を選び詳述せよ。

- (1) 職業性アレルギーを惹起する原因物質及び作業を列記し、健康管理、作業管理の実際を記せ。
- (2) 高脂血症の有所見者を対象とした3泊4日の健康教育プログラムを作成せよ。
- (3) 勤務中の脳血管疾患及び虚血性心疾患による急性死事例の取り扱いについて記せ。
- (4) 騒音職場における騒音発生源対策、伝播経路対策、騒音被曝者対策のそれぞれについて記せ。

問4. 全ての問いに正しいものには○、間違っているものには×で回答せよ。

1. 産業医の守秘義務は労働安全衛生法で規定されている。
2. 事業場における診療業務は産業医の職務として法により規定されている。
3. 常時1000人以上の労働者を雇用している事業場は専任の衛生管理者を最低1人以上選任しなければならない。
4. 事業者は高圧室内作業、放射線業務に係わる作業などの所定の作業については、作業主任者を選任しなければならない。
5. 定期健康診断は産業医の判断で省略することができない。
6. わが国は産業保健に係わるILO条約をほとんど批准している。
7. 有害物の環境濃度が3年以上許容濃度以下であり、特殊健康診断の結果が3年以上異常所見がなければ特殊健康診断は2年に1回行えばよい。
8. 有害物の環境濃度が著しく低い場合は特殊健康診断をする必要はない。
9. 定期健康診断の実施は事業者の責任であり、記録の保管義務がある。
10. 血中鉛が $30\mu\text{g}/100\text{mL}$ の作業者は分布2に区分される。
11. 事業者は新任の職長に安全衛生教育を行うことが法で定められている。
12. 事業者は労働者の健康の保持増進のための活動に便宜を供与する法的義務がある。
13. コホート研究では相対危険(Relative Risk)が算出できる。
14. 健康診断の検査所見の数値は正規分布するものとして取り扱うことができる。
15. 一時に3人以上の死傷者を伴う災害を重大災害という。
16. 平成5年度の統計によると全産業の労働者のうち、第3次産業における労働者数は約40%である。
17. 静的筋疲労を起こしやすい筋収縮は等張性筋収縮である。
18. 熱中症は発汗停止、体温上昇、中枢神経症状を生じる。
19. VDT作業による疲労予防のために、一連続作業時間の1時間以内ごとに10～15分の作業休止時間を設ける必要がある。
20. VDT作業は照度が十分であればグレアは問題とならない。
21. 呼吸用保護具のうち、ろ過式のは気中酸素濃度16%以上で用いる。
22. 防毒マスクの吸収缶はガスの種類により異なっており、そのガスに適合したものをを用いる必要がある。
23. 製造業の場合は動力プレス、ロール混合機などの一般動力機械に起因する災害が多い。
24. 職業アレルギー性喘息に労働者が罹患した場合、その職場環境の原因物質の気中濃度を許容濃度以下にすれば発作は誘発されない。
25. 二硫化炭素暴露者では網膜の微細動脈瘤が見られることがある。
26. じん肺の進行速度は暴露開始年齢とは関係がない。

27. 硫化水素は600ppm以下では血中で代謝されて無毒化されるので、眼の刺激作用に注意すればよい。
28. 建物壁面の開口部や窓が多い有害物取り扱い工場では外付け式局所排気装置が最適である。
29. プッシュプル式換気は気流の流速が大きいほど効果的である。
30. 気中有害物の濃度分布は一般に低濃度側に偏った対数正規分布を示す。
31. 聴力検査でC5dip (4000Hz 中心に聴力損失) が見られた場合は職業性難聴と考えてよい。
32. 所定および所定外労働時間に関する事項は安全衛生法により規定されている。
33. 業務上疾病の認定には産業医の証明が必要である。
34. 衛生委員会は全ての規模の事業場に設置義務がある。
35. 労働基準法による法定労働時間は原則週40時間である。
36. アルバイトとして雇用した場合、18歳未満の高校生の深夜勤務は法的に許されている。
37. 粉じん職場の作業環境測定は国家試験に合格した作業環境測定士が行う必要がある。
38. 保健婦の資格を有するものは、申請すれば無試験で衛生管理者になれる。
39. 学会専門産業医は職場への立ち入り権が法的に認められている。
40. 職業がんのような稀な疾患の発生率はポアソン分布を示す。

2. 口頭試験

口頭試験では、個々の知識と関連領域の知識との整合性や、知識の総合性、経験の程度、問題解決能力、総合的評価能力、企画力、対象の観察力、指導性、協調性等を見ることを目的とした。口頭試験では、5, 5, 5, 6名を1組とする小グループ単位で、A-1、A-2、Bの3種類の試験が実施された。

〔A-1 試験〕

- 1) 海外勤務地における感染症について述べなさい。
- 2) トルエンを用いて工業用繊維と基剤との混練を行う職場で働く20代の男性2名に環境測定結果と矛盾する尿中馬尿酸の高値が認められた。原因についての仮説をあげ、これを明らかにするための手段について述べなさい。
- 3) 最近の労働衛生行政の重点課題について述べなさい。

- 4) 職場ストレスと疾病、健康障害との関連について、あなたが経験したことがあれば、それも含めて述べなさい。その際のプライバシーとの係わりについても述べなさい。
- 5) 環境測定により管理区分が決定されるが、その概要について、又それらの具体的対策について述べなさい。
- 6) あなたの産業衛生業務を行う上での情報源について具体的に述べなさい。
- 7) 作業負荷を評価する場合、種々の条件が考えられると思われる。具体的に経験された場合はそれを強調しながら、又改善への導入について述べなさい。
- 8) 産業医の職務の中で、総括管理と考えられるものをあげ、特にあなたの経験を交えて述べなさい。
- 9) 健康情報の把握とその評価をいかに効果的に行うべきか、又どうしているか。
- 10) 作業管理の目的について述べ、作業の健康影響につき各種要因を挙げ、そのポイントを指摘しなさい。

[A-2 試験]

- 1) 産業医活動の意義、効果の指標について提起して下さい。また、客観的な指標となりうるモノサシ（物差し）について考えうるところを示して下さい。
- 2) 職場の長から、配置換えを行う際、関連する部下全員の健康状態についての情報を求められた。産業医としての対応を示して下さい。あるべきと考える情報管理・活用の形が企業内で定着するために必要な措置・活動を考慮して検討を加えて下さい。
- 3) 企業内でメンタルヘルスを進める場合、とかく労働者個人に問題が生じているかどうかの観点からの対策が中心であった。しかし職業生活を営んでいる個人において、ストレスの主なる原因は、その企業自身の社風や経営方針、人事・労務管理のあり方が大きく関わっていることは明らかである。さて、産業医として、メンタルヘルスを効果的に進めていくにあたって、企業自身に潜むストレスの要因を明らかにし、その解決策について議論し、整理して下さい。

〔B 試験〕

- 1) 阪神淡路大震災後、当社も危機管理体制を整備し直すことになりました。専属産業医の立場でこの企画に協力してください。
- 2) 快適職場づくりは、労働者の疲労やストレスを軽減するための措置として、労働省が積極的に進めている施策である。しかし、企業にとっては最近の経済不況や事業経営の悪化のため、積極的に進めていくことはなかなか難しい状況である。産業医としては、労働者の高齢化や疾病休業率の悪化を鑑み、快適職場づくりの必要性を強く感じ、衛生委員会でも機会を見て、それを訴えてきたところである。今回、経営トップとこの問題について話をする機会ができた。快適職場づくりが真に目指すところから、このような経済状況下でも実現可能な方法を立案し、経営陣を納得させるつもりで実際に発表して下さい。
- 3) 規模300人程度のコンピュータソフト開発会社です。コンピュータ画面(CAD, CGを含む)を使用し、ソフト開発を専門的に行っています。仕事柄、時間的に不規則な勤務者が多く認められます。最近、目の疲れ、頸肩腕痛、腰痛などの訴えで保健婦に相談に来る人が増えています。非常勤嘱託産業医としてこれから取り組まなければならない問題点をあげ、対策を述べなさい。
- 4) 健康管理は、疾病管理、疾病予防、健康の保持増進へと主要な視点が発展してきた。健康の保持増進を指導するには、健康教育がもっとも大切な手段である。この健康教育を効果的に行うためには、疾病管理や疾病予防の際の教育とは違ったものになることが予想される。この点に留意しながら、効果的な健康教育を行うための、あなたの実践的な企画を作成して下さい。
- 5) 職場の喫煙問題の評価、とるべき対策に係わる原則、実施対策の内容、期待する効果について整理して下さい。
- 6) モーターのビス締め作業に従事しているライン作業者に、肘や手の痛みや腰痛の訴えがみられた。このラインでは30名の女子社員がローテーションを組んで作業をしていたが、特定の作業員だけに訴えは集中していた。安全衛生委員会の席上で、組合側からこのことが問題にされ、さっそく産業医を中心とする作業条件の調査が行われることになった。

1カ月のちの安全衛生委員会で報告ができるように、スケジュールを立て、評価に

必要な項目について整理しなさい。